資料７－４

修繕費の概要について

２０２３年２月６日
四国電力株式会社

修繕費の概要

○　修繕費は、調達・取引価格の低減や工事内容・実施時期の精査などの効率化に努めているものの、労務費市況の上昇などにより、前回原価と比べ、7億円増加の317億円となった。
○　また、修繕費率（帳簿原価に対する修繕費の比率）は、メルクマールである直近5年間(2017～2021年度)の実績と比較して若干上昇(約0.17%)しているものの、労務費市況の上昇による影響(約0.09%)と、直近5年間が伊方3号機の長期停止により修繕費が減少していた影響(約0.16%)を除くと、今回原価はメルクマールを下回る水準となっている。

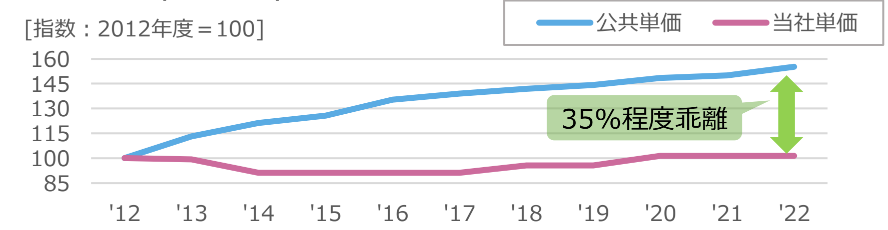
労務費市況の上昇影響

影響額：約15億円（修繕費率押し上げ効果：約0.09%）

背　景

- 労務費市況を表す代表的な指標として、公共工事設計労務単価(国土交通省公表：以下、公共単価という)があり、単価水準については、継続的に上昇を続けている状況にあるが、当社の請負契約等で適用する工事積算用労務費単価（以下、当社単価という）は、前回料金改定時のご指摘を踏まえて引き下げて以降、まとめ発注や早期発注など調達の工夫を通じて、取引先との契約合意を図りつつ、ほぼ据え置いてきた。
- しかしながら、公共単価と当社単価との乖離は年々拡大が続き、他工事への作業員流出等により、当社工事に必要となる作業員確保に支障をきたしつつあり、作業品質や施工品質の維持などに懸念が生じる恐れがあった。
- また、今年度、関係省庁(国土交通省、経済産業省)から、今般の物価高騰を踏まえ、労務費単価等の物価上昇を取引価格へ適正に反映するよう要請があった。

■労務費市況(公共単価)と当社単価の推移



- これらへの対応として、足元の労務費市況を反映すべく、**昨年9月、当社単価の改定を決定。この結果、公共単価と当社単価の乖離幅が半分程度に縮小。**
- 依然として乖離が残ることから、今後も引き上げの必要性を認識しているが、今回原価上は将来の引き上げを織り込まず、昨年9月改定単価を継続させている。

伊方3号機の長期停止影響

影響額：約25億円（修繕費率押し上げ効果：約0.16%）

実績と計画

- 伊方3号機は2016年に再稼働しており、通常、13か月運転サイクルごとの定検を実施するが、司法判断(運転差し止め仮処分)等のため直近5年間で多くの期間にわたり停止したことから、5年間で２回しか定検がなく、定検費用が大幅に低く抑えられていた。
- その後、裁判所による仮処分取り消し等により通常運転を再開したため、今後は13か月運転サイクルを継続し、原価算定期間に約3回の定検を実施する。

[メルクマール算定期間]
定検費用33億円/年
(長期停止のため通常よりも定検費用が少ない)

[今回原価算定期間]
定検費用58億円/年
(通常時の定検費用が必要)

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
伊方3号機稼働状況	運転／停止(定検)(司法判断による停止期間の長期化)	運転	停止(定検)(司法判断および特定重大事故等対処施設設置による停止期間の長期化)			運転	停止(定検)／運転	運転／停止(定検)	停止(定検)
定検費用(億円)	61	10	21	41	33	12	47	65	61

- 原価算定期間は通常時の定検費用を織り込んでおり、メルクマール比較で大きく見えるのは**比較対象である直近5年間の定検回数が極端に少なかったためである**。

これら要因をメルクマールに加味すれば、今回原価はメルクマールを下回る水準であり妥当と考えている